令和６年度　静岡大成高等学校　学校評価書

＜評価基準＞　A 目標達成度 80%以上　B 目標達成度 50%以上 80%未満　C 目標達成度 30%以上 50%未満　D 目標達成度 30%未満

分野	目標（評価項目）	自己評価書		学校関係者評価委員会	
		評価	学校としての成果と改善点	評価	ご意見
1. 目指す教師	①「自律・対話・行動」を自ら実践することができる。	B	夏季と秋季に行われた教職員研修会においても、そのテーマを「対話によるコミュニケーション」としたことで、職員室での生徒に関する情報交換が日常化されている。	B	チーム担任制導入 2 年目を終え、そのシステムに慣れてきていると同時に、さらに工夫して運用している様子が伺える。 3 年目となる来年度全学年がチーム担任制となる。引き続き、コミュニケーションを図り、より良い学校づくりを目指してほしい。
	②当事者意識を持って問題を解決することができる。	B	ほぼ全教員がクラス運営や分掌業務における自分の役割について責任感を持って取り組むことができた。今後は仕事の進め方や目標設定に関しての創意工夫を求めたい。	B	
	③対話によって相互理解と相互承認を図ることができる。	A	前述の通り、対話によるコミュニケーションを柱に教員間のつながりを強化することができた。チーム担任制 3 年目となる次年度も引き続き対話による相互理解を図りたい。	A	
	④私学人としてのビジョンを持ち学校を変えていくことができる。	B	「学校は人（教員）である」という意識づけのもと、おかげさまで次年度新入生も定員を確保できる見込みとなった。現状に満足せず、社会に支持される学校を目指していきたい。	B	
2. 対話による教育活動	①対話を通じた生徒主体の進路実現〔進路部〕	A	きめ細かい進路指導をしている中で、今持っている力で実現可能な進路目標を掲げる生徒が多い。生徒の自己肯定感を促し、もう１つ上のランクの進路目標を設定させたい。	A	講義型の授業だけではない生徒主体の探求活動など主体的に学ぶ授業が展開されている様子が伺える。 また、インスタグラムや note 等でその様子を積極的に発信し、学校の魅力を多くの人たちに伝えているのはとても良い取り組みである。
	②対話的な学びの場の創造〔教務部〕	A	講義型授業からアクティブラーニングへの移行が順調に行われている。特に探究の時間における生徒の主体的な取り組みに対して、校内外から好評をいただいた。	A	
	③対話を通じ一人ひとりに適切な支援や指導〔生徒部〕	B	ルールメイキング（校則改定）を中心に生徒の手による学校づくりを促した。その生徒の取り組みや社会の変化に対応しきれない教員が若干名いたことが残念である。	B	
	④ICT スキルの向上と全員広報活動の推進〔総務部〕	A	授業における ICT の活用は順調であり、今後は進路指導などの授業以外の場面での活用にも積極的に取り組んでいきたい。全員広報の意識づけも定着しつつある。	A	
3. 当事者意識による組織づくり	①対話によるコミュニケーションの充実	A	おおむね良好な状況でチーム担任制 2 年目を終えることができた。引き続き、対話の大切さを理解する中で、生徒個々の理解を多角的に深めていきたい。	A	生徒にとって 3 人の担任がいるチーム担任制は生徒と保護者の安心感につながっている。 会議時間の短縮や、定時退勤日の設定等、職員の勤務状況の改善の取り組みはとても良い。さらなる改善に期待したい。 職員室の机周りの整理整頓については教師が率先垂範しなければいけない事柄である。 設備の充実については寄付金やクラウドファンディングなどの活用を検討してみたらどうか。
	②業務内容と勤務の改善	B	各種会議の短時間化や毎週月曜日は定時に退勤するといった取り組みは８割程度の教員が実践できていた。運動部顧問の負担軽減についてはなかなか前に進んでいない。	B	
	③法令や服務規律の遵守	A	体罰・暴言・ハラスメント行為の禁止、時間外勤務時間の短縮、年休取得などの職務規程に定められている項目についてはほぼ全員が遵守することができている。	A	
	④社会意識や教育活動の向上	A	対話の機会を増やすことにより、生徒一人ひとりの理解を深めるとともに保護者との関係性も良好であった。また、一人の社会人として率先垂範を実行できた。	A	
	⑤教育環境の整備	B	教室や特別教室については１年間を通して美化に努めることができた。職員室については相変わらず教材が山積みになっている教員が数名いることが残念である。	B	
4. 自己目標	（教員が各自で設定した目標）	A	自己目標の内容について、大きく分けて教科指導・クラス指導・進路指導・生徒募集のいずれかに関する目標が設定されていました。	A	－